

フェロモントラップへのトマトキバガの誘殺数が昨年より多く認められています。

トマト圃場等への飛び込みや発生に注意しましょう。

トマトキバガは、令和3年に熊本県で初めて発生が確認された侵入害虫で、主な寄主植物であるナス科（トマト等）を食害します。茨城県では、令和4年から県内4地点にフェロモントラップを設置して調査を行ったところ、令和5年10月に県内で初めてトマトキバガ成虫の誘殺を認めました。（令和5年10月24日発表 病害虫発生予察特殊報 第1号 参照）

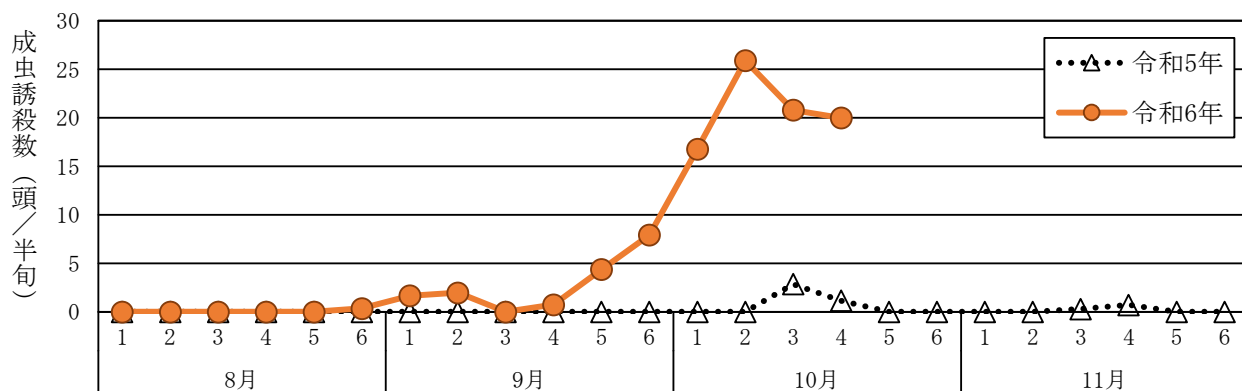
本年は、3月中旬からフェロモントラップ調査を行ったところ、成虫の誘殺は昨年よりも早い9月上旬から認められ、その後も昨年より多い誘殺を認めています（図）。

現在のところ、県内のトマトキバガによる農作物の被害は認められていませんが、他県では、冬期間でもハウス内での発生が継続的に確認されていますので、今後もハウス内への飛び込みや発生に注意しましょう。（令和6年10月18日発表 病害虫速報 No.9 参照）

トマトキバガの発生や被害が疑われた場合は、最寄りの農業改良普及センター、病害虫防除所に連絡してください。

〔トマトでの被害の特徴〕

- ① 茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の被害は、ハモグリバエ類の食害痕と類似するが、ハモグリバエ類は線状に痕を残すのに対し、トマトキバガは面的に食害する。トマトキバガの食害部分は表面のみを残した薄皮の袋状になり、葉の裏面からでも透けて見える（写真1）。
- ② 果実では幼虫が食入し内部を加害し、数 mm 程度の穿孔痕が生じるとともに食害部分が腐敗する（写真2）。



図：フェロモントラップへのトマトキバガ成虫の誘殺数（県内4地点合計）（月・半旬）



写真1 トマトキバガ幼虫による被害葉



写真2 トマトキバガ幼虫によるトマト果実の食害
（写真1、2は、農林水産省植物防疫所原図）